LA WORLD 026

グローバル
ランドスケープ通信

Cornell University

Department of Landscape Architecture
College of Agriculture and Life Sciences

渓谷に囲まれ丘を見下ろす、美しく広大なキャンパス。アメリカのアイビーリーグの一角をなすコーネル大学は、世界有数の大都市であるニューヨークから車で5時間ほどの、ニューヨーク州イサカという自然豊かな街にある。日本人で初めてアメリカでランドスケープ・アーキテクチャーの学位を取得したと言われる戸野琢磨も卒業生の一人である。約半年が経過した大学院留学から感じられたことを紹介する。

伝統と革新

1904年に創設されたランドスケープ・アーキテクチャー学科は、堅実さを保ちつつ、新たな教育のあり方を模索しているように感じられる。アイビーリーグでは唯一、修士プログラムだけでなく学部プログラムも提供しており、約10人の教授陣の下、約50人の学部生と約70人の大学院生が同じスタジオ内で日々切磋琢磨している。

キャンパスから望む冬のカユガ湖

スタジオから眺める広場（卒業生であるMichael Van Valkenburgh設計）

コーネル大学とイサカ・カレッジの学生が人口の大多数を占めるイサカは、穏やかで自由な気風が感じられる。“Ithaca is gorges”といううたい文句（gorgeousをかけている）が表すように、峡谷がそこかしこにあり、その水は近くのカユガ湖に流れ込む。キャンパス内の高い建物からは丘の下の町並みと湖を、当学科のスタジオからは、毎日のように美しい夕陽を眺めることができる。冬は厳しく長いが、美しい自然が周りに溢れており、キャンパス内外で鹿やリス、ウサギ等、様々な動物に出くわすことも少なくない。退屈な街だと考える（他学科の）学生も少なくはないが、ランドスケープ・アーキテクチャーを学ぶ者にとっては非常に好ましい環境だと感じる。

教育方針の特徴としては、実践的で堅実な点が挙げられるのではないだろうか。実務で必要な図面作成技術も当然必修科目の中に含まれる。当学科は、いわゆるデザイン・スクールではなく、農学生命科学系のスクールに属しているため、植物科学系との結びつきも強く、学科長とその妻である園芸学の教授による植栽デザインの授業では、アメリカながらの広大なキャンパス内で数百種類におよぶ樹木の実物を見ながら、デザインの現場でどのように利用できるかという点までを踏まえた学習が可能である。

そのような堅実的なプログラムであるが、新しい風を取り込むことも忘れない。特に今年度からはカリキュラムも大幅に変更し、教授陣も新旧のバランスが非常に良い状態である。日本ではあまり少ないであろう理論や歴史についての議論中心の授業は、スタジオでのデザイン実習との連携も綿密に図られている。ランドスケープ・アーキテクチャーとは何か、という根本的な問いに対して、各時代の文献やそれについての議論を通し、各々が自分の答えを探し始めるというプロセスを最初の学期から経ることで、既存の枠に留まらない視野を持つことを促す。視覚的表現のみならず言葉や音楽を用いた実験的な授業もとても刺激的である。次年度採用予定の准教授候補者にはアメリカ国内だけでなくヨーロッパやアジアからも応募があり、今後の変化も楽しみである。

幸運なことに、特に私の学年はクラスも少人数のため、教授陣が一人一人に費やす時間も必然的に長くなり、濃密な時間を過ごすことができている。課題に追われる日々であるが、学科から感じられる姿勢に刺激を受け、学生たちもそれに呼応して楽しんでいるのではないだろうか。

（取材：高橋良輔）

info

Address: Ithaca, New York 14853, USA

Access: ニューヨークより車で5時間
イサカ空港より車で15分
シラキュース空港より車で1時間

Map:

Website: http://landscape.cals.cornell.edu